

各賞には、水環境の保全や改善につながる活動が多く選ばれたほか、水防災に関わる活動や、海外への生活用水支援活動、生き物を守る活動が選ばれ、それらすべての取り組みが大変印象深いものでした。

2021 日本ストックホルム青少年水大賞には 20 件の応募が寄せられました。大賞の研究は、淡水藻類の吸水能力などを利用して汚染水処理の構築を試みるものでした。審査部会特別賞の研究も、震災に関わるものであり、東日本大震災から 10 年が経過した現在、このように復興や防災に寄与する試みが若い世代の方たちによって行われていることに深い感銘を覚えます。

現在国際連合では、2030 年を目指し、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」、いわゆる SDGs を推進しており、「すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」という目標が掲げられております。

このように私たちは、水から受ける恩恵に感謝し、安全で美しい水循環系の健全化に取り組む必要があります。本賞が、その契機の一つとなり、多くの人々が水を守り、その大切さを継承し、水に関わる様々な問題について考える活動を実践していかれることを願っております。

おわりに、水に関わる皆様の活動が、日本はもとより世界へと発展していくことを祈念し、お祝いの言葉といたします。

皆様には、このような時節がら、呉々もご自愛ください。

2021 年 6 月 15 日

日本水大賞委員会名誉総裁 秋篠宮 文仁